



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4601S		
科目名	ゼミナール I		
担当教員	福田 弥夫		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 3		
講義室	1315	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード：学修のゴールを示すディプロマポリシー（D P）との関連 D P 1－E〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができるようになる。 D P 4－F〔探究力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができるようになる。 D P 3－G〔状況把握力・判断力〕 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができるようになる。 D P 6－K〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができるようになる。 D P 7－L〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができるようになる。 D P 8－M〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができるようになる。 ■ C Rコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発(5%) C1 倫理的思考・社会認識(5%) E1 学識と専門技能(10%) F1 探求と論拠(10%) F2 課題解決(10%) G1 状況把握(10%) H1 論理的思考(10%) I1 理解・分析と読解(10%) K1 ライティング・コミュニケーション(10%) K2 オーラル・コミュニケーション(10%) L1 チームワーク(5%) M1 総合的・応用的学修(5%)		
教員の実務経験	金融庁「自賠償保険審議会」委員を平成 1 7 年から 1 0 年間、国土交通省「今後の自動車損害賠償保障制度のあり方に係る懇談会」委員を平成 1 8 年から現在まで務めるなど、日本の自賠償保険制度の制度改正や法改正の作業にこれまで携わってきました。また、生命保険会社や損害保険会社の支払審査委員会委員やアドバイザリーボードなども務めています。さらに、平成 1 4 年からは自賠償保険・共済紛争処理機構の評議員を務め、交通事故の紛争処理にもかかわってきました。その他にも、全国共済農業協同組合連合会の掛け金率及び約款審議会委員なども務めており、理論的面はもちろんのこと、これまでの立法作業や約款改訂作業への関与、さらには具体的な保険をめぐる紛争処理への参加の経験などを踏まえ、これらの実務経験を考慮		

	に入れた講義を展開します。特に3回目及び4回目の授業において、実務との関係を重視した授業を行います。	
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～ 4 完成期	
科目概要・キーワード	■危機管理において重要な役割を果たしている保険の役割を専門的に研究・実践するために必要な手法を学び、学生自らが個人のテーマを設定し、研究論文を執筆するまでの指導を行う。 学生自らが危機管理に関する問題点を発見し、仮説を構築し、自分の力で仮説を検証することにより、問題の解決につなげ、危機管理能力を養うことを目的とします。ここでは、問題意識を確立し、卒業論文につなげる個人の研究テーマを決定する前段階として、グループワークを中心として東京学生保険学ゼミナールやRISでの研究報告のための学習をします。授業形態は演習形式によって行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。	
	■キーワード 保険契約 リスク抽出 リスクヘッジ リスクファイナンス リスクマネジメント	
授業の趣旨	■副題 危機管理における保険・リスクファイナンスの研究 ■授業の目的 このゼミナールでは、危機管理と保険及びリスクファイナンスに関する諸問題の中から、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文をまとめるための指導を行います。東京学生保険学ゼミナールやRISの全国大会へ参加し、保険に関する研究発表を行うことを主眼として、各人の研究テーマに加え、ゼミナールの全員が共同で研究を行い、危機管理における保険とリスクファイナンスの課題を学びます。	
	■授業のポイント 私たちの周りにはいろいろなリスクが存在していますが、その中で保険によるリスクヘッジが可能なものを洗い出し、それに対応する保険制度の問題点と課題を抽出し、危機管理における保険とリスクファイナンスのあるべき姿を模索します。	
総合到達目標	■旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える法学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析することができるようになる。 ■論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を研究発表の形で公表し、適切に表現することができるようになる。 ■危機管理における保険の重要な役割について理解できるようになる。 ■東京学生保険ゼミナールやRISにおける報告のためのグループワークを通じて、保険における共同研究の方法を理解できるようになる。 ■東京学生保険ゼミナールやRISにおける報告のために、プレゼンテーションの重要性について理解できるようになる。	
成績評価方法	■授業におけるプレゼンテーション(電子掲示板等を利用) 2回(60%) : 適用ルーブリック E1,I1,K1,K2,M1 (評価の観点) レジュメの内容(必要な事項が盛り込まれているか、分かりやすいレジュメとなっているか、論点の不足はないか)、プレゼンテーションの論理構成(指示された内容について明確な論理構成に基づく報告となっているか)、プレゼンテーションの手法(聞き手に分かりやすい話し方となっているか)などについて評価します。 (フィードバックの方法) プレゼンテーションに際して、内容、構成、発表方法等についてコメントする。	
	■授業参加度 毎回(40%) :適用ルーブリック B1,C1,E1,G1,I1,K2,L1,M1 (評価の観点) 他者の報告に対する自らの疑問やその考察など、積極的な発言をしているか、他社から示された意見や疑問に対して、自ら考えフィードバックを行っているかなど、演習授業の構築への積極的な参加について評価します。 (フィードバックの方法) 授業への姿勢、取り組みの内容等について、随時コメントします。	
履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス(全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方の説明)、イントロダクション ②授業概要 (ガイダンス) 授業概要、授業の進め方と目的、到達目標、成績評価について説明を行

	う。(イントロダクション) 研究方法 (E1,M1)、研究論文の進め方 (B1,K1,L1)B1 ③予習(120分) 危機管理とリスクファイナンスとの関係を確認する。 ④復習(120分) ゼミナール I の概要と到達目標を確認し、修得すべきものを確認する。
2	①授業テーマ リスクファイナンスの基礎 ②授業概要 リスクファイナンスとは何か。危機管理の中でリスクファイナンスはどのような意味を有しているのかを学ぶ。事例を参考にしてディスカッションを行う (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習 (120分) 第一回目の授業で配布された資料を読み込み、リスクファイナンスの意味を理解する。 ④復習(120分) リスクファイナンスの種類と手法について復習する。
3	①授業テーマ リスクファイナンスと保険の関係 ②授業概要 リスクファイナンスになかで、保険はどのような位置を占めているのかを学ぶ。担当教員の実務経験を踏まえて、事例を参考にしたディスカッションを行う (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例の紹介と解説を重点的に行います。 ③予習(120分) リスクファイナンスにおける保険の位置づけと保険の種類について学ぶ。 ④復習(120分) 危機管理に用いられる保険の種類について復習する。
4	①授業テーマ 保険によってヘッジできるリスク ②授業概要 保険によってヘッジ可能なリスクにはどのようなものがあるかについて学ぶ。担当教員の実務経験を踏まえて、事例を参考にしたディスカッションを行う (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 担当教員の実務経験を踏まえて、事例の紹介と解説を重点的に行います。 ③予習(120分) 各種の主体が危機管理に用いる保険の種類について学ぶ。 ④復習(120分) 保険にはどのような種類があり、危機管理に用いられるものの特徴はどこにあるかを復習する。
5	①授業テーマ 各自のテーマ発表(1) ②授業概要 4回の演習を通して自分が興味を持ったテーマを選定し、東京学生保険学ゼミナールへ向けた各人のテーマを報告する (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習(120分) 事前に報告するテーマを考える。 ④復習(120分) 今回発表したゼミ生のテーマについてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認したうえで、自分のテーマ発表に生かすようにする。
6	①授業テーマ 各自のテーマ発表(2) ②授業概要 4回の演習を通して自分が興味を持ったテーマを選定し、東京学生保険学ゼミナールへ向けた各人のテーマを報告する (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習(120分) 事前に報告するテーマを考える。 ④復習(120分) 今回発表したゼミ生のテーマについてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認したうえで、自分のテーマ発表に生かすようにする。
7	①授業テーマ 各自のテーマ発表(3) ②授業概要 4回の演習を通して自分が興味を持ったテーマを選定し、東京学生保険学ゼミナールへ向

	けた各人のテーマを報告する (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習(120分) 事前に報告するテーマを考える。 ④復習(120分) 今回発表したゼミ生のテーマについてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認したうえで、自分のテーマ発表に生かすようにする。
8	①授業テーマ 各自のテーマ発表(4) ②授業概要 4回の演習を通して自分が興味を持ったテーマを選定し、東京学生保険学ゼミナールへ向けた各人のテーマを報告する (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習(120分) 事前に報告するテーマを考える。 ④復習(120分) 今回発表したゼミ生のテーマについてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認したうえで、自分のテーマ発表に生かすようにする。
9	①授業テーマ 各自のテーマ発表(5) ②授業概要 4回の演習を通して自分が興味を持ったテーマを選定し、東京学生保険学ゼミナールへ向けた各人のテーマを報告する (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習(120分) 事前に報告するテーマを考える。 ④復習(120分) 今回発表したゼミ生のテーマについてどのような課題が指摘され、質問が出たのかを確認したうえで、自分のテーマ発表に生かすようにする。
10	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISでの報告テーマの決定(1) ②授業概要 5回の演習を通して、ゼミ生各自選定したテーマのうち、東京学生保険学ゼミナールやRISにおいて報告するテーマはどれが良いのかをディスカッションする (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習(120分) これまでの報告をもとに、それぞれの報告の内容を理解し、自分の見解をまとめる。 ④復習(120分) 1回目のディスカッションを通して、自分の見解をまとめる。
11	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISでの報告テーマの決定(2) ②授業概要 5回の演習を通して、ゼミ生各自選定したテーマのうち、東京学生保険学ゼミナールやRISにおいて報告するテーマはどれが良いのかをディスカッションする (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習(120分) これまでの報告をもとに、それぞれの報告の内容を理解し、自分の見解をまとめる。 ④復習(120分) 2回目のディスカッションを通して、自分の見解をまとめる。
12	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISでの報告テーマの決定(3) ②授業概要 5回の演習を通して、ゼミ生各自選定したテーマのうち、東京学生保険学ゼミナールやRISにおいて報告するテーマはどれが良いのかをディスカッションする (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習(120分) これまでの報告をもとに、それぞれの報告の内容を理解し、自分の見解をまとめる。 ④復習(120分) 3回目のディスカッションを通して、自分の見解をまとめる。
13	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISでの報告テーマの確定 ②授業概要 5回の演習を通して、ゼミ生各自選定したテーマのうち、東京学生保険学ゼミナールやRISにおいて報告するテーマはどれが良いのかをディスカッションして決定する (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。

	③予習(120分) 3回のディアスカッションをもとに、自分の見解をまとめる。 ④復習(120分) 選定されたテーマについて、自分の見解をまとめる。
14	①授業テーマ 東京学生保険学ゼミナールとRISでの報告テーマの研究について ②授業概要 東京学生保険学ゼミナールとRISにおいて報告するテーマの担当を決めると同時にこれからの研究についてディスカッションする (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習(120分) 選定された複数のテーマのうち、自分が担当を希望するテーマについて自分の見解をまとめる。 ④復習(120分) 決定した担当に基づいて、自分の研究計画をまとめる。
15	①授業テーマ 授業のまとめ ②ゼミナールⅠでの反省点やゼミナールⅡへの進展、東京保険学ゼミナールやRISに向けての研究についてディスカッションの上で確認する (B1,C1,E1,G1,H1,K1,L1)。 ③予習(120分) ゼミナールにおけるディスカッションを振り返り、自分の成長について考えると同時に、ゼミナールへの貢献についても考える。 ④復習(120分) ゼミナールⅡに向けての課題をまとめて整理する。
関連科目	「ゼミナールⅡ～Ⅳ」。講義科目については、「危機管理学概論Ⅰ (RMGT1301)」、「生活安全と法 (RMGT1401)」、「民事法Ⅱ (RMGT2342)」、「災害と法 (RMGT3401)」、「事故責任法制 (RMGT3402)」、「復旧・復興論 (RMGT3511)」などと関連します。
教科書	その都度資料を指示します。
参考書・参考URL	その都度資料を紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 水曜日の5時限 それ以外については、メール等でアポイントメントを取ること。研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント45% ; パブリックセキュリティ15% ; グローバルセキュリティ15% ; 情報セキュリティ25% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理30% ; 法学70%

